
中国情報（WTO/FTA・貿易・安全・その他）

2007年10月31日号

©2007年9月油糧・食用油市場観測情報

【中国農業部】

中国農業部は先ごろ、2007年9月における油糧・食用油市場の観測情報について発表した。その概要は以下のとおりである。

1 農民の単位当たり菜種作付収益は増加

2007年の中国の菜種作付面積及び生産量は3年連続で減少しているが、単収は増加しており、菜種の買付価格の大幅な上昇に伴って、作付収益も急速に増加し、1畝（畝：ムー／1畝＝15分の1ヘクタール）当たりの純利益及び現金収入は、最近10年間で最高となった。

油糧生産の減少を抑え、生産を奨励する必要があることから、国務院は油糧生産を支援するための11項目の政策を実施し、農民の油糧作付けに対する積極性を誘引していることから、今年秋・冬のアブラナ播種面積は増加が見込まれている。

2 1～8月の油糧輸入量はやや増加、食用油輸入量は大幅増加

海関統計によると、2007年1～8月の油糧累計輸入量は、前年同期比1.8%増の2,054.6万トンとなった。そのうち、大豆輸入量は同1.8%増の1,980.9万トン、菜種輸入量は同28.1%増の62.3万トンとなった。油糧累計輸出量は同18.3%増の90.4万トンで、うち落花生輸出量は同35.2%増の35.2万トンとなった。

同じく食用植物油の累計輸入量は同22.7%増の515.9万トンとなった。そのうち、パーム油輸入量は同1.3%減の323.2万トン、大豆油輸入量は同74.1%増の159.7万トン、菜種油輸入量は同59倍増の24.0万トンとなった。累計輸出量は同44.8%減の11.9万トンで、うち大豆油輸出量は同28.8%減の5.0万トン、菜種油は同61.3%減の1.9万トンとなった。

3 国産食用油の供給保障が重要課題

数年来、中国の油糧作付面積が減少し、生産量も減少を続けている。一方で、国内の食用植物油の消費量が急速に増加していることから、生産と消費の矛盾が拡大している。2006/07年度の中国の食用植物油自給率は50%を割り込んでおり、食用植物油（原料を油に換算した量を含む）の輸入量は国内総生産量を超えている。今年のアブラナ、大豆などの作付面積は引き続き減少し、一部の主産地では、深刻な災害の影響により通年の油糧生産量が前年割れとなる見込みで、来年の供給保障が重要課題となっている。

4 2007/08年度の世界の油糧生産量は減少、食用油在庫量も減少

米国農業部（USDA）の9月の予測によると、2007/08年度（2007年10月～2008年9月）の世界の油糧生産量は、前年度比3.6%減の3.909億トンと見積もられている。うち大豆、綿実、ヒマワリ種子及び落花生は、それぞれ6.3%減、1.5%減、9.7%減及び0.8%減とみられているが、菜種については6.7%増と予測されている。同じく世界の油糧圧搾量は同2.9%増の3.40億トン、貿易量は同5.6%増の8,700万トン、油糧期末在庫量は同19.4%減の5,778万トンと予測されている。

2007/08年度の世界の植物油生産量は、前年度比3.7%増の1.260億トンと予測されている。そのうち菜種油は同4.8%増の1,855万トン、パーム油は同7.2%増の3,900万トン、ヒマワリ油は同10.4%減の1,004万トン、綿実油は同0.8%減の485万トン、落花生油は同0.4%減の486万トンと見積もられている。同じく消費量は同3.8%増の1.263億トン、貿易量は同12.2%増の4,860万トン前後、期末在庫量は同9.3%減の770万トンとみられている。

5 9月の国内油糧・食用油価格は高水準で推移

国内需要の増加及び国際供給量の逼迫を受け、国内の食用油価格は高水準で揺れるパターンを呈している。9月の国際大豆先物情勢は、最近3年間で最高水準にあり、大豆油の先物価格も史上最高を更新した。国際価格が下がるに連れ、国内の大豆油及びパーム油価格も月初に下落したものの、下旬には反発し、高騰の動きを維持するとともに、国内のその他の品目の市況を下支えしている状況にある。国内の菜種減産及び菜種輸入価格の高騰により、国内の菜種油市況は上昇基調にあるといえる。新収穫の落花生が次々と市場に出回るようになって買付価格はやや下降基調にあり、落花生油価格は小幅ながら下落した。国内のパーム油価格は、引き続き強含みで推移している。9月末に、政府が20万トンの備蓄食用油を放出したことから、食用油市場は次第に弱含みとなっている。

【菜種】9月下旬の内モンゴ地区の新収穫の菜種買付価格は、前年同期比で40%前後高い1斤（約500g）当たり2.00～2.05元となった。南方地区の菜種の買い付けは基本的に終了し、江浙（江蘇省及び浙江省）地区の少量もの（端もの）の買付価格は、同32%高の1斤当たり1.90～1.94元となった。

【落花生】9月末の鄭州市（河南省の省都）食糧卸売市場の2級落花生（殻なし）の卸売価格は、1トン当たり8,030円で、前月比0.2%安、前年同月比36%高となった。

【大豆油】9月末の山東省における4級大豆油の工場出荷ベースのオファー価格は1トン当たり8,700元、黒龍江省は8,900元、江浙地区は8,750元で、前月に比べ18%前後高く、昨年同月に比べ平均65%前後高かった。

【菜種油】9月25日の貴州省における新収穫の菜種油の工場出荷ベースのオファー価格は1トン当たり9,550～9,600元、江蘇省は9,000～9,150元、四川省は9,600～9,700元、湖北省は8,800～9,000元、湖南省は8,950～9,000元、安徽省は9,050～9,150元で、前年同期比で平均48%高となった。

【落花生油】9月下旬の福建省廈門市における2級落花生油の卸売価格は1トン当たり12,000元、江蘇省新沂市は15,000元でいずれも前月並み、前年同月比ではそれぞれ35%高、53%高となった。

【パーム油】9月24日の天津港におけるパーム油（融点24℃）のオファー価格は1トン当たり7,900元、広州港は7,880元で、ともに前月安、前年同月比57%高となった。

6 国際油糧・食用油価格は引き続き上昇

世界の油糧生産が前年度比3.6%減、期末在庫量が同19.4%減と大幅に減少し、食用油期末在庫量が同9.3%減の一方、需要は依然として強含みであることから、9月のシカゴ先物取引所の大豆及び大豆油先物価格は史上最高を更新し、国際市場における油糧・食用油価格引き続き上昇すると見込まれている。9月下旬における、10月出航予定のカナダ発中国向け菜種のCNF（C&F価格、1990年の国際商業用語改正後はCFR価格：運賃込み価格＝FOB価格＋運賃）は1トン当たり497ドルで、前月比2.4%高、前年同月比44%高となった。南米の未精製大豆油価格は同910ドルで、前月比4.8%高、前年同月比59%高となった。マレーシアのパーム油（融点24℃）価格は同863ドルで、前月比10.9%高、前年同月比48%高となった。

9月下旬のカナダの菜種CNF価格に基づく試算によると、輸入菜種の通関渡し価格（Duty Paid：CIF＋関税等）は、江浙地区の新収穫の菜種工場買取価格に比べ1トン当たり880減前後高く、南米の未精製大豆油の通関渡し価格は、山東省の4級大豆油の平均工場出荷価格とほぼ同水準であった。